

年末手当第2回団体交渉

社員の努力・苦勞に応え、 3.2ヶ月の満額回答を行え！

11月2日、本部は2010年度年末手当の第2回団体交渉を行い、会社に対して社員の努力や苦勞に応え、要求通り3.2ヶ月の満額回答を行うよう強く主張しました。

会社は、業績の向上が社員の努力によるものであることは認めつつも、経済の動向や取り巻く環境を理由に「前年を上回るのは確実とは限らない」とし、挙句の果てには議論の最後に、「2.85、2.80だって考えられる」などと言いました。

私たちは、昨年を上回る要素は山ほどあるが、下回る要素など一切ないことを強く主張し、まさに、真摯に社員の苦勞や努力に応えるための回答は、私たちの要求である3.2ヶ月であることを主張しました。

私たちの主な主張

- ◎社員の苦勞で業績が上がったのだから、その分社員に回すのは当然だ。
- ◎他の大手企業も今年末手当はプラスを示している。いわゆるドン底からプラスに転じている。
- ◎異常な会社役員の高額報酬や変動しない株主配当、実現できないかわからないリニア建設への膨大な投資は、会社の余裕の表れで、(3.2ヶ月を)出せないはずがない！余裕分を苦勞した社員へ回せ！

恣意的なカットはやめろ！

会社は、手当のカットは恣意的でないと言っています。しかし、大阪第一運輸所では、夏季手当で9名の組合員中7名がボーナスカットされています。数から見てもこれが恣意的でないとはいえますか？まして、会社は全体のカットされた数すら明らかにしません。これは、カットが恣意的であることを明らかにされたくないためです。

私たちは、そもそも、ボーナスカットそのものに反対しています。

皆さん、私たちと共に声を上げましょう！

支払いの条件は揃った！
社員の努力による業績向上、他企業のプラス回答
余裕の証明たる役員の高額報酬やリニア投資等